



テニス少年男子 フォアハンドを放つ本県の石橋二県総合運動公園テニスコート、鈴木久崇撮影

テニス

力出せず2回戦で涙

少年男子

テニス少年男子の足利大付は2回戦で宮崎に0-2の敗戦。第1シングルの笹本龍哉は「もうちょつとやれることがあった」と不完全燃焼で終わったことを悔やみ、第2シングルの石橋万佐希は「びびってしまった」と気持ちの弱さを敗因に挙げた。両者とも第1ゲームはストレートでキープ。しかしその後、笹本は4ゲー

ムを連取され流れを取り戻せず。石橋はキープ合戦の中、一つ許したブレイクが痛かった。相手サービスマンで4度あったデュースも「無理に攻めに行ってしまった」と生かせなかった。

とはいえ1回戦では山口に快勝するなど収穫もあった。1年の笹本は「さらに上の大会に出られるように経験を生かしたい」、2年の石橋は「レベルの高い試合を味わえたことはよかった」と前を向いた。

(鈴木久崇)